向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.5　2013 年 6 月 1 日発行

農学部圃場・浅野地区・弥生 2 丁目住宅地を望む（2012 年 9 月 27 日撮影）

向ヶ岡弥生町と農学　その 1　「大土管水稲試験施設」について

写真は 2012 年、東京大学農学生命科学研究科閉鎖系温室／ハイブリッド・エコ・チャンバー建設に伴う遺跡の確認調査時に撮影しました。水戸藩駒込邸の「大名小路通り」の検出が予想されていましたが、遺跡を確認することはできませんでした。

この写真の中に史跡と弥生町ゆかりの農作物が写っています（3 ページ参照）。向ヶ岡弥生町は「弥生時代」の名称由来となる土器が発見された場所で、言問い通り沿いに向ヶ岡弥生町会が建立した「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑があります。2010 年の分生研・農学部総合研究棟地点の調査では弥生時代の方形周溝墓を調査しています（2p）。遺跡は池之端方向に延びる埋没谷にあり、浅野地区武田先端知ビル等でも谷沿いで方形周溝墓が調査されています。浅野地区の高台に集落（国指定史跡の弥生二丁目遺跡）が位置し、低地の谷に墓が配置された弥生

時代の景観が復元されています。埋没谷は警視庁射的場造成の後、住宅地になります。住宅地で弥生時代の遺跡は確認されていませんが、弥生時代の研究者は周辺に田圃のあった可能性を指摘しています。

江戸時代、徳川光圀は駒込邸に彰考館前身の史館を設置し明の学者で技術者の朱舜水を招聘。駒込邸には学者が集まり学問の場となりました。光圀は朝鮮人参の栽培、徳川齋昭は水戸での茶栽培を目指し宇治の茶師を駒込邸に招き試験栽培と製造を行い、国本での茶栽培に成功します。明治時代以降、駒込邸跡地は陸軍省用地、文部省用地、警視庁用地、東京府用地、浅野家敷地、第一高等学校敷などを地経て現在に至ります。駒込邸跡地で元水戸藩士増田数之助他 2 名によって開墾が行われ、明治 6 年（1873 年）まで桑（生糸）・茶、麦、ソバなどの栽培が行われていました。江戸時代以降の「向ヶ岡弥生町と農学」については今後ニュースレターで紹介します。

「大土管水稲試験施設」について

2010 年 1 月 25 日～3 月 31 日、埋蔵文化財調査室は分生研・農学部総合研究棟地点の調査を行い昭和 39 年（1935 年）頃に設置された「大土管水稲試験施設」を調査しました。発見当初は何に使用した施設か全く分からなかったのですが、遺跡見学会の際、施設の管理、実験を担当されていた熊澤喜久雄先生（元東京大学農学部）に設置の経緯、行われていた実験等についてご教授いただきました。戦後の施設ですが、東京大学史、農学史の観点から調査しました。本文は熊澤喜久雄先生からいただいた「農学部農芸化学科植物栄養・肥料学研究室管理地、大土管設置の経緯」から作成しました。（原）

東大農学部は昭和 10 年（1934 年）に第一高等学校と敷地交換して駒場から現在地に移転をしたが、その際に農場機能は田無に移転し、温室・硝子室・小庭園などは弥生地区に移設し、またポット試験や小規模畑作試験地として若干の面積の圃場が確保された。

1．　しかし、水田造成は困難であったため、水田精密試験用に、浸透水採取装置〔小土管〕付の大土管（有底）を上部を地上に出した状況で埋めて水稲栽培試験を行った。土管の構造や配置などは図のように推定されます（3p）。

2．　この大土管を用いて行われた試験の結果報告は学会誌などには見受けられないので、あまり十分なものは得られなかったと思われる。しかし、水稲作付けは毎年行われ、採種を中心に管理されていた。

3．　昭和 39 年（1984 年）頃、農学部 4 号館の新設工事に伴う、掘崩し残土が大量に発生したので、その機会に大土管水稲試験地を畑作精密試験地に転換ことにした。すなわち大土管の底に穴を開けて排水可能にし、その中の水田土を取り出し、代わりに、建設前に畑として利用されていた表土（黒土）と心土（赤土）に分けて採土し、土管中に詰め込んだ。後の管理を考え、大土管の外側にも土を運び込み、一見すると表面は同一の畑表面のようにした（3p）。

4．　この大土管試験の最初のものは、芝草生長管理試験であり、土壌改良試験であったので、試験土管区の内外にわたり、同一の芝草が作付され芝地として刈りこみ、その他の管理がなされてきた。

5．　昭和 62 年（1987 年）頃までは土管を利用した試験を行ったが、それ以降は試験は行われずに一般の芝地として、その場所をさまざまな用途に従って管理利用をし、現在に至った。従って大土管は地下埋設物のようになった。（熊澤）

調査では、大土管の中に小土管が残る大土管も確認されており「大土管水稲試験」時の状態を示していると考えられます。現在も圃場では稲作の実験が行われています。圃場で行われている稲作は弥生時代から継続しているわけではありませんが、日本の稲作は弥生時代から試行錯誤を繰り返し現在まで綿々と続いてきたものです。「弥生式土器発掘ゆかりの地」で稲作実験が行われている事はとても意義深いと思います。（原）

大土管を検出した分生研・農学部総合研究棟地点

「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑

農学部検出方形周溝墓

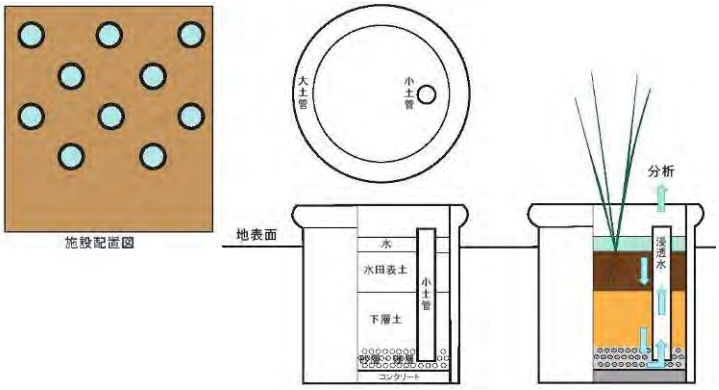
農学部圃場の田圃（2012 年 9 月 27 日撮影）

大土管の出土状況

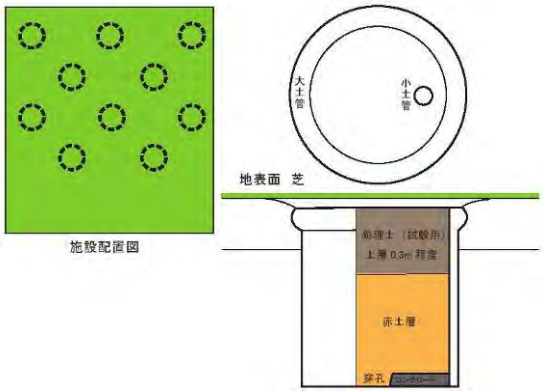
大土管内部の断面　右側に小土管

大土管の土と小土管を取り除いたところ

大土管の配置　分生研・農学部総合研究棟地点

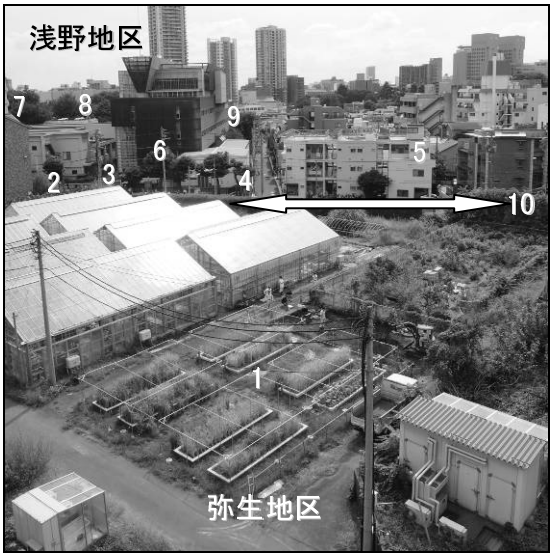


昭和 11 年（1936 年）頃　水稲栽培試験



昭和 39 年（1984 年）頃　芝草生長管理試験

大土管の構造と試験の変遷（熊澤先生資料より作成）



1. 水田
2. 桑畑　桑は蚕産研究のため、お蚕様の餌として栽培されています。明治時代、東京府は外貨獲得を目的に、空地になっていた大名屋敷を開墾、桑・茶を栽培した。この「桑茶政策」によって空地になっていた大名屋敷は農地になる。「桑茶政策」は失策とされるが、駒込邸跡では元水戸藩士　増田数之介他 2 名が開墾、桑（生糸）・茶などの栽培は軌道に乗っていたが、農場は閉鎖され陸軍省に引き渡される。
3. 浅野北門　方形周溝墓の現地保存
4. 「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑
5. 警視庁射的場跡
6. 工学部武田先端知ビル　方形周溝墓展示
7. 国指定史跡　弥生二丁目遺跡のある台地
8. 水戸藩駒込邸表御殿跡・浅野侯爵邸跡
9. 情報基盤センター　「向岡記」碑
10. 言問い通り

参考文献　東京大学埋蔵文化財調査室 2009『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9　東京大学本郷構内の遺跡　浅野地区Ⅰ』、同上 2012『東京大学埋蔵文化財調査室調査研究年報 8　2009・2010 年度』

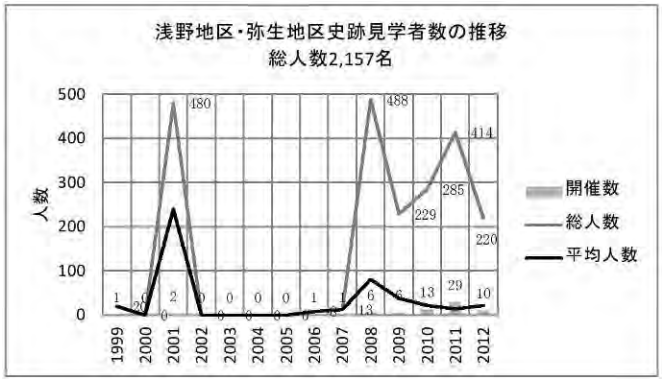
【図書】 鹿野琢見 著『法のまにまに』 1982 年 海竜社

荻窪の古本屋で購入しました、外箱・本文のイラストは鹿野さん。

弥生美術館創設者の鹿野琢見さんのエッセイ集。弥生美術館創設の経緯、戦争への思いなどが書かれています。「弥生町名騒動記」に弥生町の町名変更問題の顛末について書かれています。文京区は昭和 39 年(1964 年)2 月 9 日「弥生式土器発掘ゆかりの地」である「旧向ヶ岡弥生町」の一部を「根津一丁目」に変更。サトウハチロー(詩人)、団藤重光(東大教授)、勝本正晃(東北大学名誉教授、民法学)、西川義方(内科医学者、元侍医)等と「町名擁護対策委員会」を組織、町名変更の行政訴訟を提起し(以下本文から)「徹底的に争ったのであった。町内の住民は特に保守色彩の強い山の手住宅街の人々であるが、珍しく一丸となって「由緒ある町名を何とかしても残さなければならない」と粘り強く訴訟行動に協力し抵抗運動を試みたのであった。町名訴訟は東京地裁位野木裁判長のもとで口頭弁論数次ののち、都のあっ旋により区側が折れて当該区域を「根津」から「弥生」に変更することで円満落着をみ、「弥生」の町名は残ったのであった。しかし、「向ヶ岡弥生町」を元のままの町名にすることまでは法律上も事実上も無理だった。そこでせめて任意団体の町内会の名称だけは「向ヶ岡弥生町会」することにし、区もこれを公認している。私は、近い時期に改めて「向ヶ岡」の名称も将来に残すための方法を、旧一高会の方々や町内会の人々の協力をえて実現すべく別途検討中である。」。昨年、町会の法被に旧町名の「向ヶ岡弥生町」が入りました。鹿野さんの思いは継承されています。しかし「町名擁護対策委員会」の中に、学問上困る考古学関係者が挙げられていない事が残念でなりません。

【2013 年度の向ヶ岡弥生町に関する見学会・展示】 昨年度もたくさんの方々に弥生町を知っていただきました。

日付	グループ	内容	参加人数
2012 年 4 月 30 日	都立稔ヶ丘高校フィールドワーク	本郷地区-浅野地区-弥生地区-根津-小石川	10 名
7 月 14 日	市川市博物館拓本部会見学会下見	浅野地区-弥生地区	8 名
8 月 25 日	徳川ミュージアムボランティアガイド研修会	弥生地区・浅野地区見学	10 名
9 月 30 日	市川市博物館拓本部会見学会	浅野地区-弥生地区	48 名
10 月 7・14 日	修復のお仕事展Ⅳワークショップ参加者	ワークショップ「水戸藩士 立原杏所が描いた向ヶ岡と忍ヶ岡を巡る」	17 名
10 月 7～14 日	修復のお仕事展Ⅳ展示見学者 会場:旧平櫛田中邸アトリエ	武田先端知ビル出土弥生土器、方形周溝墓、「向岡記」碑の展示	400 名
2013 年 1 月 6 日	たいとう歴史研究会谷中七福神めぐり	向ヶ岡、忍ヶ岡を解説	16 名
3 月 12・19 日	那珂歴史研究会見学会	弥生地区・浅野地区見学	77 名
5 月 10 日	群馬県立近代美術館・埋蔵文化財調査室	浅野地区見学	2 名
			588 名



見学会データグラフ(1999～2012 年)

徳川ミュージアムボランティアガイド研修会

編集後記 今号で取り上げた農学部の「水稲試験施設」について、熊澤喜久雄先生に原稿・図の確認をしていただきました。

先日、ニュースレターを置いていただいている、洋食屋 フレンディーさんへ食事に行ったところ「1行が長いので読みづらい、写真は良い」というお客さんの声を伝えていただきました。そこで、本号は2段組みにしました。ニュースレターは、蕎麦屋の田毎さんにも置いていただいています。ニュースレターの発行は2年目に入りました。これからも研究成果を公開してゆきたいと思います。支援者の方々、読者の方々今後もよろしくお願いします。

向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.5 2013 年 6 月 1 日発行

発行 原 祐一

連絡先 〒153-8904

東京都目黒区駒場 4-6-1 東京大学埋蔵文化財調査

携帯 080-5504-9782

メール y-hara@dolphin.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0037

東京都町田市木曽西 2-3-14 電話 042-792-3100